

科目名 : 成人歯科Ⅳ 〈高齢者歯科学、先端歯科医療〉		必	1 単位
(Advanced Dentistry, Geriatric Dentistry)			
履修年次/時期 : 2 年次 前期 授業形態 : 講義 時間割 : 前期 () 限			
担当教員 : 赤坂 徹(実務経験有)			
学修目的	高齢者の特性を理解し、高齢者の特徴である個人個人の状況に応じて適切な歯科医療を提供できるようになる。口腔機能を健全に保つことは高齢者にとって大変に重要であるが、高齢者の口腔機能を健全に保つために口腔疾患の特徴、全身疾患との関連を知り、臨床に応用するための基礎知識を修得する。 CP 2,3 DP 2(2),3(3)に関連する 科目 No.S2C09H08		
到達目標	①高齢社会と高齢者に関する社会保障を説明できる。 ②加齢変化について組織、器官、身体機能、精神心理面、口腔領域の各レベルで説明できる。 ③高齢者の口腔領域の疾患を理解し、説明できる。 ④全身状態を把握し、個々の症例に適応し応用できる。 ⑤高齢者医療の状況を理解し対応方法について説明できる。 ⑥高齢者の口腔衛生管理について理解し、その評価方法や管理方法を説明できる。 ⑦摂食嚥下のメカニズムを理解し、高齢者の摂食嚥下障害について評価診断と対応方法を説明できる。 ⑧介護保険の概略を理解し、介護保険における歯科衛生士の役割を説明できる。 ⑨歯周組織再生誘導法(GTR)、歯槽骨再生法(GBR)を理解し、説明できる。 ⑩インプラントについて概略を理解し、説明できる。		
授業概要	高齢者歯科学は高齢者の顎口腔機能を維持・回復することにより全身的な健康に寄与することを目的としている。高齢者は、顎口腔機能はもとより身体機能も低下していることが多く、全身疾患を有し、身体状況に個人差が大きいなどの特徴があり、これらの事情に配慮した対応が必要である。講義では、高齢者の持つ特性と歯科診療をはじめ顎口腔機能回復、維持、管理の重要性と方法、社会保障制度、歯科衛生士の役割について解説する。また、歯科医療は、新しい治療法や考え方、従来では処置ができなかった症例への対応が可能になるなど進歩が著しい。歯科衛生士もその現状をふまえ、先端歯科医療に対応できる知識が必要である。そこで、先端医療では臨床で導入されているが教科書ではあまり取り上げられていないインプラントおよび歯周組織再生誘導法(GTR)、歯槽骨再生法(GBR)について解説する。		
評価方法	講義への参加度(10%)、定期試験の総合評価(90%) 試験に対するフィードバックは掲示にて行う。		
予習・復習時間	【予習】0.5 時間 【復習】0.5 時間		
教科書	歯科衛生士講座 高齢者歯科学(監著 森戸光彦:永末書店) 先端医療では教科書は使用しません。		
参考書	必要の都度指示します		
オフィス-連絡先	akasaka@kdu.ac.jp 赤坂はオフィスアワーには附属病院障がい者歯科外来で患者対応を行っていることがほとんどなので、この時間の対応は困難な場合が多いと予想される。連絡については上記メールアドレスに御連絡いただきたい。		